

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.132) 2025/9/10

目次

1. 学会長挨拶
2. 第 51 回大会報告
3. 第 52 回大会案内
4. 総会報告
5. 園田賞報告
6. 理事会報告
7. 定例研究会報告・告知（関東）
8. 定例研究会報告・告知（関西）
9. 看護・ケア研究部会報告・告知
10. 渉外・国際交流活動報告
11. 会員の動向
12. 追悼 山手茂先生（本学会名誉会員）
13. 編集後記

1. 学会長挨拶

このたび、日本保健医療社会学会の会長を拝命いたしました美馬達哉です。2023 年より会長を務められた金子雅彦先生からのバトンを引き継ぎ、重責を痛感しております。まずは、コロナ禍からポストコロナ期への移行という大きな転換点にあつて、学会の安定的な運営と発展に尽力された金子先生をはじめ、前期理事会の先生方、第 50 回大会（東京医療保健大学）および第 51 回大会（長崎大学）の大会長・関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本学会は 1974 年の保健医療社会学研究会の発足以来、2024 年には 50 周年を迎えました。この節目にあたり、学会の歩みを振り返るとともに、次の世代につながる知の基盤をどのように築いていくかが、今期の大きな課題になると考えています。第 51 回大会が示しましたように、国境を越える人びとの移動の増大はその一つです。これまで以上に多様な分野と対話し、社会との接点を豊かにしながら、学会としての公共的使命を果たしていきたいと願っています。

今後も年 1 回の学術大会、年 3 回の学会誌、定例研究会を軸としつつ、若手研究者の育成や、会員相互の連携、国際的な発信のあり方などについても、理事会と協力しながら検討を進めてまいります。保健医療社会学というフィールドの幅広さと奥行きを生かし、会員の皆様とともに、より開かれた、そして魅力ある学会のかたちを模索していければと考えております。

引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（美馬会長）

2. 第 51 回大会報告

2025 年 5 月 24 日（土）～25 日（日）、長崎大学において、第 51 回日本保健医療社会学会大

会を開催いたしました。本大会のテーマは、“Health and Medical Sociology in Motion :『越境』をさぐる”としました。『越境』というキーワードを使ったのは、「健康科学」「社会科学」等の異なる学問分野や、「患者」と「医療者」、「当事者」と「研究者」等の役割を越えて、新たな視座を追究しようとする本学会にも親和性があると思われたからです。本大会の運営は、一般演題および RTD は学会の研究活動委員会、大会校企画（大会長講演・シンポジウム・記念講演）は大会企画委員会と役割分担をし、両者連携で取り組みました。また、看護・ケア部会ならびに研究活動委員会による大会関連企画（2025 年 3 月、立命館大学）も本大会の参加者数増につながったものと思います。最果ての地長崎までどれくらいの方がいらっしゃるのか密かに案じておりましたが、ふたを開けてみると、おかげ様で国内・国外から約 270 名の方（Web 参加者 29 名を含む）が参加され、文字通り国境や学問分野を越えた、和気藹々とした大会となりました。

プログラムについては、一般演題（口演・示説）計 49 題、RTD 計 13 演題と、例年よりも多かったために、初日の午前中から複数の一般演題セッションと RTD を同時並行で実施しました。このため、長崎に前泊された方も多かったと思われます。大会の会場が非常にわかりにくい場所であったことに加え、特に初日の朝は長崎名物の土砂降りに見舞われたことから、時間通りに始まるかはらはらしましたが、朝一番のセッションも滞りなく始めることができました。

本大会は、近代・現代医学史に関する貴重資料を保管するミュージアムや、原爆遺構等がある長崎大学坂本キャンパスにおいて開催されました。このため、キャンパス自体を観光資源として、参加者に紹介することができました。キャンパス内の見どころを記した絵地図を配布したところ、発表の合間に足を運ばれた方が多くいらっしゃいました。2 日目は、本学の学生自らが学内ツアーを組んで案内役を引き受けてくれ、参加者に喜んでいただきました。また、長崎大学経済学部山口純哉ゼミのみなさんに会場内での出展をお願いし、お土産となりそうな、長崎をモチーフとした小物を販売してもらいました。山口ゼミでは、就労継続支援 B 型作業所等の物品を取り扱っており、このような学生の活動は参加者の間で評判が高かったようです。お金をかけなくとも、学内における様々な資源を有効に活用することは、大会を成功させる一つのカギかもしれません。

最後に、本大会を実施するにあたり、長崎国際観光コンベンション協会の開催補助金をいただいたことをお知らせします。大会の運営は決して簡単なものではありませんが、クリエイティブな企画の準備は楽しくもありました。参加者・企画者・運営者等様々な方のお支えにより、つつがなく終わることができたことに、今はほんとと安堵しております。どうもありがとうございました。

（第 51 回大会長：平野裕子氏 [長崎大学]）

3. 第52回大会案内

第 52 回大会は、摂南大学寝屋川キャンパス 3 号館で開催いたします（バスでのアクセスになります、懇親会はありません）。開催日時は、2026 年 6 月 13 日（土）から 14 日（日）です。土曜日の大会は、午後からになります（委員会を除く）。メインテーマは「ライフの多様性に関

かれた保健医療社会学をめざして——ビッグデータ／研究支援／市民科学」です。このメインテーマに連動した定例研究会を事前に関西で 2 回開催します。奮ってご参加下さい。本大会では、大会長講演および教育講演を「オンデマンド配信」しますが、他の部分は対面開催です。詳細は 2025 年 11 月頃に公開予定の大会 IP をごらん下さい。一般演題、RTD は 12 月から公募します。摂南大学は京都と大阪の間にありますが、いずれの都市もインバウンド需要に伴い宿泊予約がとり難くなっております。学会参加にあたっては、早めの宿泊予約をお勧めします（高槻、守口、門真あたりにも宿があります）。

（第 52 回大会長：樫田美雄理事 [摂南大学現代社会学部]）

4. 総会報告

第 51 回日本保健医療社会学会大会（長崎）の 2 日目 2025 年 5 月 25 日（日）に議長に中村美鈴会員（名古屋市立大学）を選出し、総会が行われました。総会議案書における各議案は以下の通りです。

第 1 号議案：2024 年度事業報告

第 2 号議案：2024 年度決算・監査報告

第 3 号議案：2025 年度事業計画

第 4 号議案：2025 年度予算

第 5 号議案：名誉会員（進藤雄三会員）の推挙

第 6 号議案：次期会長の推挙

第 1 号議案から第 6 号議案までは議案書に基づいて説明が行われ、承認されました。なお、第 5 号議案は規約第 3 条に基づき推挙された進藤雄三氏が承認されました。また、第 6 号議案は規約第 11 条第 4 項に基づき推挙された美馬達也氏が承認されました。

（石川前理事：総務担当）

5. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に 2006 年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞（2011 年度より「園田賞」）の 2024 年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下のとおり決定しました。

受賞者：河村裕樹氏（松山大学）

受賞作：「実践の中の精神医学的診断概念——見立ての実践的推論形式」（『保健医療社会学論集』第 35 巻 2 号、pp. 54-64、2024 年）

2024 年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』（第 35 巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）を対象にして選考されました。

（佐藤前理事・園田賞選考担当）

6. 理事会報告

2025 年 5 月 7 日（水）に 2025 年度第 1 回理事会、2025 年 6 月 18 日（水）に 2025 年度第 2 回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

1) 2025 年度第 1 回理事会報告

※2023-2024 年度役員

日時：2025 年 5 月 7 日（水）9：00～10：00

会場：ZOOM 会議

出席者：金子会長、石川理事、三井理事、松繁理事、美馬理事、平野理事、黒田監事、事務局平野（記 国際文献社）

欠席者：田代理事、海老田理事、佐藤理事、井口理事、朝倉監事

1. 第 51 回大会および総会についての確認（会長・総務理事）

総会議案書については修正がないことが確認された。総会の議長、園田賞の講評、名誉会員の授与について手順が確認された。

2. 大会時評議員会の議題について（会長・総務理事）

金子会長より、黒字が続いていることから会員への還元方法について意見を募る予定であることが伝えられた。

3. 各担当の新旧担当者間の引継ぎについて確認（会長・総務理事）

金子会長より、各担当間で引継ぎを行うことが伝えられた。また、常勤職にない会員の会費減額措置の継続について説明があった。

4. 育志賞について（総務理事）

石川理事より、例年、園田賞受賞者が育志賞の条件を満たしている場合は推薦することとされていたが、今回は条件を満たしていないため推薦しないことが説明された。

5. 編集委員会報告（編集理事）

資料にもとづき、論集の編集状況・刊行予定が確認された。

6. 入退会者の承認（総務理事）

石川理事より、入会者 13 名の承認依頼があり、全員承認された。退会 35 名、資格停止退会 12 名、逝去 1 名の報告があった。

7. その他

金子会長より、日本学術会議改正法案への対応について説明があり、他学会の状況を見て、理事会有志として表明を支持する旨を学会 HP へ掲載することとした。檜田理事が他学会の状況をリスト化し、美馬理事が表明文を作成することとなった。

（石川前理事：前総務担当）

1) 2025 年度第 2 回理事会報告

※2025-2026 年度役員

日時：2025 年 6 月 18 日（水）17：00～18：00

会場：ZOOM 会議

出席者：美馬会長、清水理事、海老田理事、野島理事、樫田理事、前田理事、細野理事、黒田監事、蘭監事、平野（記 国際文献社）

欠席者：松繁理事、細田理事、天田理事

1. 第 52 回大会の準備状況の報告

樫田第 52 回大会長より資料の通り、6 月 8 日に実行委員会を開催したことが報告された。大会テーマについては「ライフの多様性に関わった保健医療社会学をめざして-ビッグデータ／研究支援／市民科学-」が提案され、承認された。

2. 編集委員会報告

海老田理事より資料の通り、編集委員会メンバーについて報告があった。

3. 研究活動委員会報告

前田理事より資料の通り、研究活動委員会メンバーについて報告があった。

7 月 27 日に看護・ケア部会と共催で第 1 回定例研究会を開催することが伝えられ、9 月以降に第 52 回大会のプレ企画を行う予定であることが報告された。

若手部会の発足について今後検討していくことが伝えられた。

4. 看護・ケア研究部会報告

報告事項なし。

5. 渉外・国際交流活動報告

細田理事が欠席の為、美馬会長より資料の通り、国際学会の報告及び渉外・国際交流委員会メンバーについて報告があった。

6. ニューズレター132 号の発行予定

細田理事が欠席の為、美馬会長より資料の通り、国際学会の報告及び渉外・国際交流委員会メンバーについて報告があった。

7. 入退会者の承認について

清水理事より資料の通り、入会者 6 名の承認依頼があり、全員承認された。退会 1 名、逝去 1 名の報告があった。

8. その他

・日本学術会議改正法案への対応

美馬会長より学術会議の改正法案について声明文を出したことが報告された。

・総務理事からの確認事項

清水理事より理事会メーリングリストについて現時点では理事のみが受信可能となっており、監事も受信できるようにするかどうかの提案があったが、今まで通り、監事は投稿のみ可とすることとした。

清水理事より平野第 51 回大会長より第 51 回大会ホームページをアーカイブとして残したいとの提案があり、学会ホームページの見直しと合わせて、業者へ見積を依頼する予定であることが伝えられた。どのような方法かによって金額が異なるが、100 万円を超えない範囲で相談していくこととした。

オープンアクセス義務化について保健医療社会学論集は対応済みであるかの確認がなさ

れ、現在は即時公開しており、対応済みであることから、学会ホームページにオープンアクセス対応済みであることを明記することとなった。

9. 次回の理事会日程について

美馬会長より 8 月末から 9 月上旬頃で開催する予定であることが伝えられた。

(清水理事：総務担当)

7. 定例研究会報告・告知（関東）

2025年度第1回定例研究会は、第51回大会のアフター企画として、（関東・関西をあわせた）研究活動委員会と看護・ケア研究部会の主催、立命館大学生存学研究所の共催という形で、2025年7月27日（日）に立命館大学で行われました。報告の詳細につきましては、看護・ケア研究部会報告を御覧ください。

2025年度第3回（第1回関東）定例研究会を下記の通り開催します。今回は、2024年に現代書館から刊行された、齋藤公子氏の著書『がん患者の集団になにができるか——肺がんの罹患経験の社会学』の合評会となります。評者として、文学社会学を専門としながら病いの語り研究をすすめられてきた鈴木智之氏と、病いの語り研究から近年では科学技術社会論へと関心を広げられた志水洋人氏に、それぞれの立場からのコメントをお願いしております。患者たちのライフストーリーを検討し、集まって活動することで社会や医療のあり方を変え、生き方の可能性を広げることができると論じた本書の持つ射程について、参加者との議論を共有する機会と考えております。ぜひ奮ってご参加ください。

日時：2025年11月8日（土）14:00～17:00

場所：立教大学池袋キャンパス11号館A301教室

*補助的な手段としてZoomによる配信を予定しています。

<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/>

書評対象書：齋藤公子（立教大学）『がん患者の集団になにができるか——肺がんの罹患経験の社会学』（現代書館、2024年）

評者：鈴木智之（法政大学）

評者：志水洋人（名古屋大学）

司会：前田泰樹（立教大学）・細野知子（日本赤十字看護大学）

*会員／非会員の区別なく、参加費無料で参加できます。

(前田理事：研究活動担当)

8. 定例研究会報告・告知（関西）

2024年度第2回定例研究会（関西）は、研究活動委員会主催、医療社会学研究会と立命館大学先端総合学術研究科・生存学研究所との共催により、2025年3月15日（土）、立命館大学朱雀キャンパス（Zoom併用、文字情報保障あり）で開催された。

テーマは「看護の〈学〉の新たな地平——医学の力で治せる病気は少ないが、看護できない

病人はいない」であった。本学会会員であり、看護師としての実践を続けながら、看護学の枠を越えた研究に取り組み、このたび博士論文を出版した柏崎郁子氏（東京女子医科大学）と戸田真里氏（京都光華女子大学）を招き、二著をめぐる合評会が行われた。

総合司会は長瀬雅子氏（順天堂大学）が務め、評者として生命倫理学の立場から日笠晴香氏（岡山大学）、文化人類学の立場から澤野美智子氏（立命館大学）が登壇した。また、同様の分野で研究を進める院生の中田明子氏、高橋花子氏（以上、立命館大学大学院先端総合学術研究科）、伯耆真理子氏（聖路加国際大学看護学研究科）も、それぞれの視点からコメントを行った。

柏崎氏の著書『〈延命〉の倫理——医療と看護における』（晃洋書房）は、エンド・オブ・ライフにおけるケアが否定的に「延命」と呼ばれてきた経緯を理論的に分析した力作である。本人や家族の思いを重視する近年の潮流に対し、あえて「生理学」の視点を前景化する点に特色があり、この問題意識をめぐって議論が交わされた。

一方、戸田氏の著書『からだがやぶれる——希少難病 表皮水疱症』（生活書院）は、希少難病である表皮水疱症（EB）の当事者が直面する困難を重厚なインタビュー調査によって描き出したものである。EBは皮膚がはがれて水疱や潰瘍となり、全身に炎症や瘢痕が生じやすい疾患であり、外見に関わるスティグマ、医療資源の不足といった課題が浮き彫りにされ、多角的に議論が行われた。

フロアからも多くの質問が寄せられ、真剣かつ熱心な討議が続いた。参加者は会場で約20名、Zoomから約40名にのぼった。

（美馬前理事：前研究活動担当）

定例研究会の告知（関西）

2025年度の関西定例研究会は、下記の通り開催する予定です。いずれも第52回大会プレ企画ですが、内容は異なります（以下、敬称略）。

【第1回】

日時：2025 年 9 月 28（日）13：30～17：00

場所：国労大阪会館 3 階大会議室（JR 天満駅徒歩 3 分）

<https://www.navitime.co.jp/poi?spot=00011-060317943>

趣旨：人生 100 年時代、人生は多様性を増しています。この変化に研究支援の体制は追いついているでしょうか。2026 年のテーマである「ライフの多様性に関わった保健医療社会学を目指して」に連動して「研究支援の体制革新」を模索します。研究支援は「標準的研究者像」と支援対象の環境との落差を埋める発想から、多様なライフに合わせた研究スタイルを構想する発想に発想上の転換をするべき時期に来ています。フロアと共に考えていきたいと思います。

報告 1：「大学での研究支援の『多様化』の現在——ダイバーシティといたしながらの女性活躍

支援」(巽真理子、大阪公立大学教員)

報告 2:「研究支援のユニバーサルデザイン化——ライフスタイル中立的な研究支援の未来像」
(樫田美雄、摂南大学教員)

討論者: 松繁卓哉 (追手門学院大学教員)、吉田雄一朗 (摂南大学職員)

司会: 樫田美雄 (担当理事)

※本企画関連の資料が掲載された／る グーグルドライブの URL は下記

https://drive.google.com/drive/folders/1Hreq9nwdd-FG-sEfKk-tV6YmnOM_cw_X?usp=sharing

【第 2 回】

2026 年 3 月ごろに京都近郊での開催を予定しています。

テーマとしては「ケアの対象を考える——血友病周辺女性の経験より」で構想中です。

年内には、学会 HP で情報公開をいたします。

(樫田理事、研究活動担当)

9. 看護・ケア研究部会報告・告知

1) 役員体制について

今年度の看護ケア・研究部会は昨年度の役員体制を継続します。部会長は本多康生 (福岡大学)、副部会長は坂井志織 (東京都立大学)、会計は松繁卓哉 (追手門学院大学)、庶務は細野知子 (日本赤十字看護大学) です。どうぞよろしくお願いします。

2) 第 1 回研究例会報告

第 51 回大会アフター企画 (主催: 日本保健医療社会学会研究活動委員会、看護・ケア研究部会、共催: 立命館大学生存学研究所)

開催日: 2025 年 7 月 27 日 (日) 13:00~16:00

場所: 立命館大学朱雀キャンパス (ハイブリッド開催)

登壇者: 村上靖彦氏 (大阪大学)

当日参加者数: 対面参加 21 名・オンライン参加 60 名 (非会員を含む)

今回の研究会は初の大会アフター企画として、本部会と研究活動委員会が主催し、立命館大学生存学研究所のご協力のもと開かれました。第 51 回大会 (平野裕子大会長、於長崎大学) では、「Health and Medical Sociology in Motion: 『越境』をさぐる」をテーマに、外国人介護職の経験など通じて日本の高齢者施設での介護の現状や課題が多角的に検討されました。

本研究会は、こうした問題提起を受けて介護の専門性や、介護を研究することの意義について、引き続き考察を深めることを目的としました。本年 5 月に『鍵をあけはなつ——介護・福祉における自由の実験』(中央法規出版) を刊行された現象学者・村上靖彦氏を講演者に迎え、介護・福祉の現場を見つめ直し、ケアの実践に即してその意味と価値を再考する場としました。活発な議論がなされ、社会やケアに潜む暴力とは何か、小さな願いごとがもたらす生きるスベ

ースとは何かなど、参加者それぞれが問いを持ち帰るような貴重な機会となりました。

なお、立命館大学生存学研究所によるアクセシビリティ保障として、文字情報保障をしていただきました。会場で交わされる言葉が即座に文字で示され、理解を分かちやすい環境となりました。

3) 2025 年度研究例会の開催予定

今年度はあと 2 回の研究例会を開催します。

第 2 回研究例会（オンライン開催）： 2025 年 9 月 13 日（土）14:00～17:00

第 3 回研究例会（オンライン開催）： 2025 年 12 月 20 日（土）14:00～17:00

* 第 3 回研究例会の報告を希望される方はこちらからお申し込みください。

<https://forms.gle/EXPMYpHzMFp2zJgE6>

第 2 回研究例会のご案内は以下の通りです。

日時：2025 年 9 月 13 日（土）14:00～17:00

報告者 1：末武友紀子さん「看護師長への昇進の実態——自らチャンスを手放す女性看護師」
（日本赤十字看護大学看護学研究科博士後期課程）

報告者 2：募集中

参加を希望される方はこちらからお申し込みください。

<https://forms.gle/Y6JdaxGJGJKwjbo3A>

皆様のご報告・ご参加をお待ちしております。

（細野理事：研究活動担当）

10. 渉外・国際交流活動報告

国際社会学会が、2025 年 7 月 6 日（日）から 11 日（金）にモロッコの首都ラバトで開催されました。

また、アジア太平洋社会学会が共催する会議が、2025 年 11 月 23 日（日）～24 日（月・祝）に東京（アイオス永田町）で開催されます。申し込みのフォームは下記です。

<https://forms.gle/jpoRvEf6K4W9kFKn6>

（細田理事：国際・渉外担当）

11. 会員の動向

2024 年 5 月 8 日～2025 年 6 月 13 日までの申請者数は下記の通りです。

入会者数：通常会員 36 名、共同発表会員（通常）21 名、学生会員 15 名、共同発表会員（学生）1 名

退会者数：通常会員 32 名、共同発表会員（通常）5 名、学生会員 1 名、シニア会員 1 名

逝去：名誉会員 2 名、通常会員 4 名

資格喪失：通常会員 11 名、通常会員（減額）1 名

学生会員への変更数：17 名

シニア会員への変更数：11 名

常勤職にない会員の会費減額申請数：15 名

(学会事務局)

12. 追悼 山手茂先生（本学会名誉会員）

藤澤由和（評議員）

日本保健医療社会学会の創設期から本学会を牽引された山手茂先生のご逝去に、謹んで哀悼の意を表させていただきます。先生は広島県福山市に生まれ、東京大学文学部社会学科を卒業後、県立広島女子大学、東京女子大学、茨城大学、東洋大学を経て、新潟医療福祉大学社会福祉学部長・名誉教授として学部創設と人材育成を先導なされました。

保健医療研究会時代から会報担当理事等として基盤整備にご尽力され、のち複数回に渡り学会長を務められ、学術と実践の往還を推し進められました。創設期には会報の起草や月例会の企画運営、共同研究体の形成に心を砕き、若手を実地に鍛える学会文化を築かれ、その姿勢は本学会の基本的姿勢として今日まで受け継がれていると思われます。さらに日本医療社会福祉学会初代会長、日本学術会議社会福祉研究連絡委員会委員等を歴任され、保健・医療・福祉を横断する議論の舞台を広げられました。

私事になりますが、山手先生との出会いは、二十代後半の大学院生の頃、本学会の研究会に参加させて頂いたことがきっかけでした。率直な批評で問いを深め、若手の試みを研究へと発展させる場づくりに感銘を受けたこと、今でもはっきりと覚えております。やがて新潟医療福祉大学が新設され、先生が学部長、またご懇友園田恭一先生もおられた社会福祉学部にお声掛けを賜り、大学人としての歩みを始めることができました。その第一歩を支えてくださったこと、また共に研究および教育に携わられたことを、今でも深く感謝しております。

先生の研究関心は、博士論文の中核となった『福祉社会形成とネットワーキング』等を初めとする多くの著書に共通する、当事者・専門職・地域を結ぶ総合化の理念であったと思われます。また方法論的には現場に学び現場へ還すという原則に則り、医療におけるソーシャルワーカーの専門性と倫理、制度の形を、理論と実務の双方から問い直し、制度化の意義と限界をもに示されました。また学部運営等では民主的な意思決定と開かれた相互批判を重んじ、異なる立場を結び直す対話の技法を教えてくださいました。被爆体験や戦後福祉の形成に向き合われた人生史が、弱い立場の声を中心に据える視角を育み、医療・福祉・地域の諸課題への対応を現実の仕組みへと変える推進力となっていたと思われます。

未だ分断の只中にある保健・医療・福祉を再び結び直すことは、先生が考えられてきた中心的な課題であり、学会という場で、問い直し、新たな知へと昇華させていくことは、山手先生の思いを受け継ぐ最良の形ではないかと思われます。先生の多生のご厚情に深謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

13. 編集後記

ニューズレターNo.132 は、2025-26 期の理事会発足後の最初のニューズレターになります。今号では 5 月に実施した第 51 回大会の開催報告に加え、来年 6 月の第 52 回大会のお誘い、および、2025 年 3 月に開催された 2024 年度第 2 回定例研究会（関西）や 7 月に開催された看護・ケア研究部会の定例研究会、今後の関東、関西の研究例会の開催予告などについてお知らせいたしました。第 51 回大会は長崎の地での大変充実した大会となりました。第 52 回大会も引き続き対面開催を予定しておりますので、来年度のご予定に入れておいていただけますと幸いです。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No.92 から PDF ファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>) でも公開しています。

(天田理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当（天田城介）
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5	アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375